

監訳者まえがき

21世紀になり、日本でも将来を見据えた新たな科学の発展、技術の展開等の文明創生、そして世界に寄与できるような芸術の文化創生が語られるようになってきています。新しい文化や文明の原点は我々の創造性に在ることは疑う余地が無いことです。しかしながら、その創造性とは、何処に起源があり、どのようにして発掘され、育てられ、発展され、展開していくのであろうか、大変に興味があるところです。しかしながら、日本において、全ての科学技術、社会科学・人文系活動、芸術活動の原点にある創造性やその起源についてはあまり語られることは無く、何に向けて創造性を発揮すべきであるか、その帰着点の成果や結果についてばかり注目している傾向があります。このように、対象、結果、成果を重視する考え方は円滑、柔軟にそして自由に創造性を発揮するのに、むしろ、阻害する要因となっています。創造性発揮に至る起源、プロセス等を重要視することが、結果的に創造性を達成することになり、それに基づいた文明的、文化的な成果をもたらすことになるはずです。また、専門化していく学問や科学技術、芸術を再度見直して、新たな創造的な分野の発掘への道筋をつけるべきです。人間は強い習性を持っている動物ですので、本書から天才の人々から“天才が天才たる由縁”を学び、“天才のひらめき”はどのようにして生まれてきたのかを学ぶことは、我々の習性を新たに、また発見し、創造性発揮には大変に有益です。同時に、我々、日本人が持っている独特の文化、文明を有機的に結び付け、補い合うことに繋がって行くことになるでしょう。

本書で登場する天才たちは物理、科学、医学、工業、数学等の科学技術分野や音楽、絵画、著述、彫刻等の芸術分野でノーベル賞級の著名な人たちですが、それらの人たちを身近に感じさせる記述と内容であり、大変に興味深く読むことができます。天才と呼ばれる人たちを身近に感じ、彼らが用いた手法や思考、態度を容易に良く理解することができて、“天才的なひらめき、創造性”を求める人たちに大いなる勇気とやる気を起こさせ、何か、考えや世界がとてつもなく広がったことを実感させる本であり、大変に有益な本であることを願っております。

本書で記述して内容は、“天才的なひらめき”や“創造性”はどのような人たちにも達成可能であることを示しており、我国の教育等に欠けていた創造性発掘、育成、展開プロセスにおける方法論を巧みに記述しているものです。論理性が優勢なデジタル化時代においてこそ、アナログ的な“直感やひらめき”は重要であり、これら天才的なひらめきを持ち合わせている人たちを重要視していかなければなりません。本書は、我国の独特の“ひらめき、感性、直感”を持ってして、科学技術や芸術の分野で、21世紀の世界的な活躍ができるような人材が育っていくことに多いに貢献すると信じています。さらに、社会現象にも充分応用可能な概念と方法論であり、経済学者、政治家、ビジネスパーソンにも有用な本であろうと存じます。

最後に、Synosia や Polymath といったことにも言及し、人間の感性の極めである芸術的な才覚とそれ以外の才能が融合する教育体制の必然性を説いております。これは文武一体的な教育にも繋がり、より人間的な創造性を育み、より多機能的な人間の育成をもたらし、活躍の場の基礎となるものであろう。また、著者の Robert Root-Berstein 教授は Michigan State University の教授であり、参考文献が多数記載されております。ご参考にして頂ければ、尚一層、理解が進むと存じます。

監訳者の1人である不破が著者の Robert and Michele Root-Berstein 夫妻にお目にかかり、本書の日本出版の希望を伝えて10数年が経過しました。この度早稲田大学出版部からの発行になりましたが、現在読み返しても、内容の新鮮味、説得性は健在であると強く感じております。本書の出版に大変にお世話になりました早大出版部の武田文彦氏、また原稿の校正にご協力を頂きました阿島俊一氏には厚くお礼を申し上げたいと存じます。

最後に、本書のもう1人の監訳者である大和合金株式会社前代取締役社長である萩野茂雄氏が、本書の刊行を待たずして、2017年12月ご逝去されました。本書の刊行を墓前にご報告することによって、生前筆者が同氏から受けたご厚誼に報いることができれば幸いです。」

監訳者

不破章雄（早稲田大学名誉教授）